

# 株式会社丸井グループ

## 2021年3月期 第1四半期決算概要

〇〇〇〇  
MARUI GROUP  
2020年8月6日

加藤でございます。よろしくお願いいたします。

改めまして、本日はお忙しい時間にもかかわらず、当社  
第1四半期 決算電話会議にご参加いただきまして、誠にありがとうございます。

それでは、決算概要資料に沿って、2021年3月期 第1四半期決算概要  
についてご説明させていただきます。

- ① EPSは7.3円、コロナ影響により前年を下回る
- ② 連結営業利益は89億円（1%増）、6期連続の増益
- ③ 小売セグメントの営業利益は64%減、  
フィンテックセグメントの営業利益は17%増
- ④ 第1四半期のコロナ営業利益影響は小売で△13億円、  
フィンテックは+3億円

まず、ダイジェストのページをご覧ください。

今期のダイジェストは4点ございます。

1点目、EPSは7.3円となり、新型コロナウイルス感染症拡大防止に向けた店舗休業などの影響により前年を大きく下回りました。

2点目、連結営業利益ですが、フィンテックが引き続き堅調に推移したことに加え、店舗休業期間中の固定費を特別損失へ振り替えたこともあり、前年比1%増の89億円、6期連続の増益となりました。

3点目は、セグメント別営業利益ですが、コロナ影響を大きく受けた小売が64%減、フィンテックは17%増となりました。

4点目、第1四半期のコロナ影響は、小売でマイナス13億円、フィンテックでカード発行費用の減少などもありプラス3億円となりました。詳細につきましては後ほどご説明いたします。

## 連結業績



	20年3月期 第1四半期	21年3月期 第1四半期	前年比 (%)	前年差
EPS (円)	25.7	7.3	28	△18.4
	億円	億円	%	億円
グループ総取扱高	6,858	6,153	90	△705
売上収益	574	461	80	△113
売上総利益	458	373	81	△85
〈リカーリングレベニュー〉	〈321〉	〈273〉	〈85〉	〈△47〉
販管費	370	284	77	△86
営業利益	88	89	101	+1
当期利益	56	16	28	△40

\*店舗休業期間の固定費などで感染症関連費用75億円を特別損失に計上

2

それでは決算の概要を説明させていただきます。

決算概要資料2ページの「連結業績」の表をご覧ください。

中期計画の主要KPIとしておりますEPSは、コロナ影響により前年72%減の7.3円となり、前年を下回りました。

グループ総取扱高は小売セグメントにおける店舗休業の影響が大きく、10%減の6,153億円、売上収益については、同じく店舗休業影響で小売セグメントが42%減と大きな減収、一方、フィンテックセグメントは2%減で、連結では20%減の461億円となりました。

売上総利益は、85億円減の373億円、リカーリングレベニューの構成比は72%にまで上昇しました。

販管費は、変動費、カード発行連動費用の減少や、店舗休業期間中の固定費を特別損失に振り替えたことなどにより、86億円減の284億円となりました。

リボ分割手数料、家賃保証、各種定期払いなど、前期には売上総利益の65%を超える構成となったリカーリングレベニューが利益の安定化にも寄与し、営業利益は1%増の89億円、6期連続の増益となりました。

当期利益につきましては、店舗休業期間中の固定費などを特別損失に計上した影響により、72%減の16億円となりました。

## セグメント別利益の状況

	営業利益				ROIC	
	20年3月期 第1四半期	21年3月期 第1四半期	前年比	前年差	21年3月期 第1四半期	前年差
	億円	億円	%	億円	%	%
小売	24	8	36	△15	0.3	△0.5
フィンテック	81	95	117	+14	1.2	+0.2
全社・消去	△17	△15	—	+2	—	—
連結	88	89	101	+1	0.8	+0.0

続きまして、3ページ セグメント別利益の状況 をご覧ください。

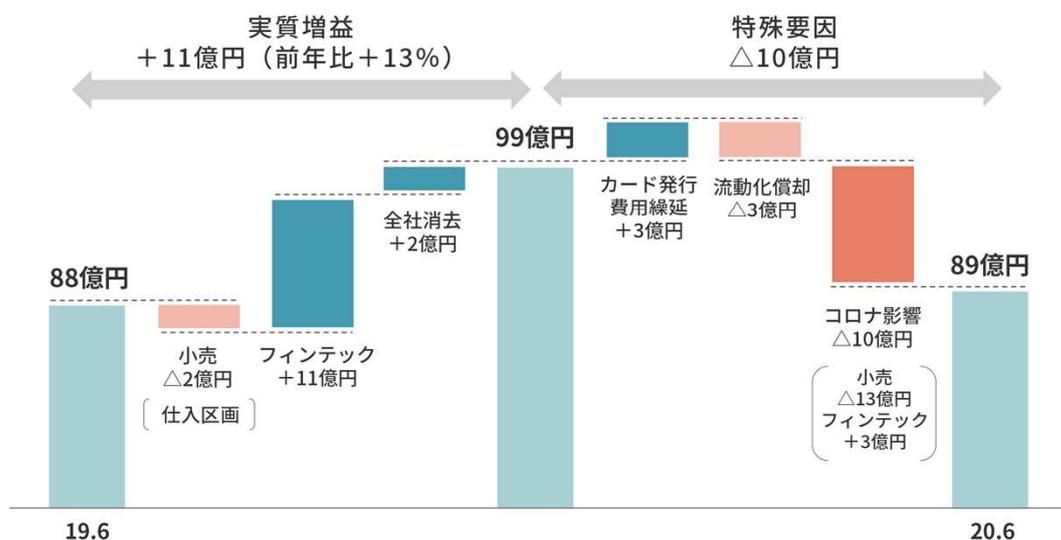
小売セグメントの営業利益は64%減の8億円、  
コロナ影響を大きく受けましたが、黒字を確保しました。

またフィンテックセグメントは、営業利益が17%増の95億円と、引き続き  
高伸長いたしました。

全社消去は経費の圧縮等により、2億円減少いたしました。

以上の結果、連結営業利益は1%増の89億円、6期連続の増益となりました。

・連結営業利益はコロナ影響を含む特殊要因を除き、13%増の11億円増益



次に、4ページ 営業利益増減の内訳 についてご説明いたします。

営業利益増減の特殊要因として、昨年度の第4四半期よりLTV経営推進に向けたカード発行費用繰延を実施し、利益を3億円押し上げましたが、一昨年度より実施しているリボ債権の償却に加え、コロナ影響10億円のマイナスが発生しており、差し引き10億円の減益要因となりました。

これらの特殊要因を除いた実質的な営業利益は、99億円、13%の増益となりました。

実質増益のセグメントの内訳については、小売が2億円の減益となりましたが、フィンテックが11億円の増益となっております。

なお小売セグメントの実質減益要因は、仕入区画の売上総利益の減少によるものです。

## フィンテックセグメントの状況

	20年3月期 第1四半期	21年3月期 第1四半期	前年比	前年差	
	万人	万人	%	万人	
新規会員数	20	10	49	△10	
(丸井グループ店舗外入会)	(11)	(8)	(75)	(△3)	
カード会員数	697	715	103	+18	
プラチナ・ゴールド	222	256	115	+34	
	億円	億円	%	億円	
フィンテック取扱高 *	6,308	5,917	94	△391	* 取扱高の推移
ショッピング	5,108	4,599	90	△509	4月 86%
(外部加盟店)	(4,861)	(4,494)	(92)	(△367)	5月 90%
サービス	807	1,056	131	+249	6月 105%
カードキャッシング	371	241	65	△130	
営業債権残高 (流動化債権を含む)	7,051	7,179	102	+128	
ショッピングリボ・分割払い	3,421	3,543	104	+122	
カードキャッシング	1,521	1,425	94	△96	
貸倒率 (%)	0.48	0.47	-	△0.01	

次に、5ページ フィンテックセグメントの状況 についてです。

先ほどお話した通り、フィンテックセグメントの営業利益は、17%増の95億円となり、引き続き高伸長いたしました。

第1四半期の新規カード会員数は、休業による店舗からの入会減少等により、前年に対して10万人減の10万人となりました。

6月末のカード会員数は前年に対して18万人増の715万人となりました。うちプラチナ・ゴールド会員は34万人増の256万人、総会員数における構成比は4%増の36%となり、メインカード化が着実に進んでおります。

取扱高に関しては、家賃保証ビジネスが引き続き拡大しましたが、外出自粛に伴いショッピングクレジット、カードキャッシング取扱高が減少したため、6%減の5,917億円となりました。

取扱高の月別推移は、4月は86%、5月は90%と前年を下回りましたが、6月は前年比105%と、前年を上回る水準まで回復しております。

流動化債権を含むショッピングのリボ・分割払い残高は、前年に対して4%増の3,543億円となりました。

また、流動化債権を含むキャッシングの残高はキャッシング利用減少に伴い、6%減の1,425億円となりました。

また、貸倒率は前年より微減、貸倒費用も前年比3%増と、コロナに関連して極端な動きは今のところ出てきておりません。

## バランスシートの状況

	20年3月末	20年6月末	増減
	億円	億円	億円
営業債権	5,556	5,404	△151
（債権流動化額：外書）	(1,819)	(1,775)	(△45)
〔流動化比率（%）＊1〕	(24.7)	(24.7)	(0.0)
割賦売掛金	4,163	4,115	△47
営業貸付金	1,393	1,289	△104
固定資産	2,592	2,654	+62
有利子負債	4,798	4,728	△70
〔営業債権比（%）＊2〕	(86.4)	(87.5)	(+1.1)
自己資本	2,898	2,914	+17
〔自己資本比率（%）〕	(32.7)	(32.9)	(+0.2)
総資産	8,860	8,846	△14

＊1 流動化比率 = 債権流動化額 / (営業債権+債権流動化額)

＊2 営業債権比 = 有利子負債 / 営業債権

次に、6ページ バランスシートの状況 についてご説明いたします。

営業債権は取扱高の減少に伴い、前期末より151億円減少しましたが、それに伴い有利子負債も70億円減少しました。

流動化比率は、6月末現在は24.7%となっております。

営業債権に対する有利子負債の比率は87.5%、自己資本比率は、32.9%となっております。

## キャッシュ・フローの状況



	20年3月期 第1四半期	21年3月期 第1四半期	前年差
	億円	億円	億円
営業キャッシュ・フロー	△109	121	+231
営業債権等の増減（△は増加）	△112	132	+244
基礎営業キャッシュ・フロー*	3	△11	△13
投資キャッシュ・フロー	△73	△47	+26
固定資産の取得	△33	△22	+12
投資有価証券の取得	△42	△11	+32
固定資産の売却他	3	△15	△17
財務キャッシュ・フロー	90	△118	△208
有利子負債の増減（△は減少）	217	△82	△299
配当金の支払	△57	△47	+9
自己株式の取得他	△70	12	+82
現金及び現金同等物の期末残高	375	365	△10

\*基礎営業キャッシュ・フロー = 営業キャッシュ・フロー - 営業債権等の増減

7

次に、7ページ「キャッシュ・フローの状況」でございます。

営業キャッシュ・フローから営業債権等の増減を除いた基礎営業キャッシュ・フローはマイナス11億円となりましたが、これは主にキャッシュレスポイント還元や雇用調整助成金の入金期ずれによるものです。

また、投資キャッシュ・フローは、ベンチャー投資・固定資産の取得などがあったほか、パートナーシップ強化策として店舗のテナントさまに敷金の一部を返還したことなどもあり、47億円のキャッシュアウトとなっております。

- ・GPIFがESG投資の運用にあたり採用した4つのESG指標すべてに採用時より選定
- ・今期の再エネ使用率は50%を達成見込み、TCFDに基づく機会と物理的リスクの開示を拡充

### ■GPIFが選ぶ4つのESG指標すべてに採用時より選定

2020 CONSTITUENT MSCI日本株  
女性活躍指数 (WIN)

2020 CONSTITUENT MSCIジャパン  
ESGセレクト・リーダーズ指数



### ■再生可能エネルギー100%に向けた取り組み

- ・2018年よりRE100に加盟（2030年までに100%達成）
- ・2021年3月期の再エネ使用率見込み：50%

**RE 100**

### ■気候変動への取り組み

- ・TCFDへ賛同、有価証券報告書にて情報を開示
- ・今回、気候変動による機会および物理的リスクの内容を拡充



次に、8ページ ESGの状況 についてご説明いたします。

当社はGPIFがESG投資の運用にあたり採用した4つのESG指標すべてに採用時より選定されておりますが、今年もまたすべてに採用していただきました。

これは当社グループが、環境への配慮、社会的課題の解決、ガバナンスへの取り組みとビジネスが一体となった、未来志向の「共創サステナビリティ経営」を進めている点を評価していただいたと考えております。

また、当社はRE100に加盟し、2030年度までに使用する電力を100%再生エネルギーに切り替えるという目標を掲げ、取り組んでおります。グループ会社のマルイファシリティーズが、電力小売事業者に登録し、再エネ電力の直接仕入れをおこなったことも寄与し、今年度の全社の再エネ使用率は、50%以上となる見込みでございます。

また、TCFDに基づく機会と物理的リスクの開示をアップデートし、引き続き今回の決算短信と2020年3月期有価証券報告書にも、TCFDについて記載をしておりますので、ご確認いただければと思います。

今後も、ESG経営のフロントランナーとなるべく、すべての人が取り残されることなく「しあわせ」を感じられる、インクルーシブで豊かな社会をめざし、ステークホルダーの皆さまと共創サステナビリティ経営に、積極的に取り組んでまいります。

- ・小売は休業期間中の固定費を特別損失に計上したこと等により営業利益影響△13億円
- ・フィンテックはカード発行費用の減少等により+3億円

■営業利益の影響値

セグメント	営業利益			休業期間中固定費等の特別損失計上額	
	億円	億円	億円	億円	
小売	△13	△94	△81	設備費	△28
				人件費	△16
				事務費他	△25
				計	△69
フィンテック	+3	△35	△38	人件費	△4
				減価償却費他	△1
				計	△5

続きまして、9ページをご覧ください。ここでは第1四半期のコロナ影響額についてご説明します。

小売セグメントは、外出自粛による収入減や店舗休業期間中の家賃免除等ありましたが、同じく休業期間中の固定費を特別損失に計上したこと等により、営業利益はマイナス13億円の影響となりました。

フィンテックは、前回の決算説明会でご説明したように、消費低迷による取扱高の減少が短期的には利益影響があまりなく、逆にカード発行費用の減少の影響が大きく、プラス3億円の影響となっております。

また、それぞれのセグメントの特別損失へ計上した費用の内訳は、表の右の通りになります。

## 2021年3月期のコロナ影響シナリオ

- ・ 6月は当初予測を上回る基調で推移も、7月はコロナ感染の再拡大に伴い6月の基調を下回る
- ・ 本決算時点のシナリオを見直し、依然として業績回復時期の見極めが困難なため、業績予想は引き続き未定

### 〈コロナ影響のシナリオ〉

#### ◇シナリオ（E）

- ・ 20年6～7月基調が3月まで継続
- ・ 小売取扱高80%
- ・ フィンテック外部加盟店105%

）

#### ◇シナリオ（G）

- ・ 20年7月基調が3月まで継続  
+1ヵ月間休業
- ・ 小売取扱高75%
- ・ フィンテック外部加盟店105%

セグメント	20年3月期	コロナ 影響なし	21年3月期 前年差		
			コロナ影響反映後		
	億円	億円	シナリオ (E)	～	シナリオ (G)
小売	100	±0	△60	～	△80
フィンテック	384	+40		±0	
連結営業利益	419	+40	△60	～	△80
当期利益	254	+20	△90	～	△130

10

最後に、10ページ 2021年3月期のコロナ影響シナリオ をご覧ください。

前回の決算説明会でお話いたしましたAからDのシナリオを、第1四半期の実績をふまえて見直し、新たに3つのシナリオを策定し影響額を算出いたしました。

休業が終了後の6月の基調は当初の予測を上回る基調で推移したものの、7月に入り、ウイルス感染症の再度の拡大懸念に伴い、6月の基調を下回っております。

前回お話しさせていただいたシナリオはいずれも7月以降小売の基調が徐々に回復していくものでしたので、今回は現状を踏まえて、直近の基調が年間を通じて続くものとしたしました。

フィンテックセグメントは、3つのシナリオとも外部加盟店でのショッピングクレジット取扱高が前年の105%程度で推移するものとしたしました。

具体的には、小売セグメントについては、まずシナリオEでは3月まで、6、7月の基調前年比80%が続くシナリオ、

次にシナリオFは、3月まで7月の基調前年比75%が続くシナリオ、

さらにシナリオGでは、Fのシナリオに加えて、再度1か月の休業があるという前提で算出いたしました。

これらのシナリオでは、コロナ影響反映後の営業利益は、小売でマイナス60億からマイナス80億、フィンテックはプラスマイナス0、従って営業利益ベースでもマイナス60億からマイナス80億となります。

また、感染症関連費用等の特別損失の計上を反映した当期利益ベースでは、マイナス90億からマイナス130億となります。

なお、以上3つのシナリオを策定しましたが、現状においては今後の動向が、このシナリオの範囲内に収まるのか、それとも超えてしまうのかの見極めが困難なため、通期予想については未定とさせていただきます。

今後業績への影響を見極め、詳細が明らかになり次第、速やかに公表いたします。



本資料に掲載しております将来の予測に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。お問い合わせは、I R部 03-5343-0075にご連絡ください。

OIOI  
MARUI GROUP

決算概要につきましては以上でございます。ご清聴ありがとうございました。